

令和 2 年 7 月 20 日
中部地方整備局
名古屋港湾事務所

名古屋港で、初の大型ケーソンを据付

～金城ふ頭の完成自動車輸出向け岸壁、完成への第一歩！～

名古屋港湾事務所は 7 月 26 日（日）、7 月 28 日（火）に名古屋港金城ふ頭において、耐震強化岸壁（水深 12m）のハイブリッドケーソン[※]据付工事を行います。

ケーソン据付にあたっては、国内最大の起重機船「海翔」（4,100t 吊）を使用し、1 日 1 函、2 日間にわたって据付工事を行います。本工事では、全 9 函のうち初めの 2 函を据付けます。

（※）ハイブリッドケーソン：鋼・コンクリートの複合構造のケーソン

1. 概要

名古屋港金城ふ頭地区において、自動車関連産業の国際競争力を維持・強化することを目的として、名古屋港ふ頭再編整備事業を推進しています。

本工事では、新たな岸壁を整備するにあたり、岸壁の本体となるケーソンの据付を実施します。

ケーソン据付工事の日程、場所は以下のとおりです。（別紙 2 参照）

日程：令和 2 年 7 月 26 日（日）12 時 00 分 ～ 14 時 30 分 まで（予定）

令和 2 年 7 月 28 日（火）12 時 00 分 ～ 14 時 30 分 まで（予定）

場所：名古屋港金城ふ頭地先（愛知県名古屋市港区金城ふ頭）

※当日の気象状況等によっては、延期の可能性もあります。

2. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、中部専門記者会、名古屋港記者クラブ、
港湾新聞社、港湾空港タイムス、日本海事新聞社、海事プレス、
マリタイムデーリーニュース

3. 問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所
企画調整課 課長 小川 徹記（おがわ てつり）
係長 川部 直毅（かわべ なおき）

TEL：052-651-6763 FAX：052-652-0303

事業概要

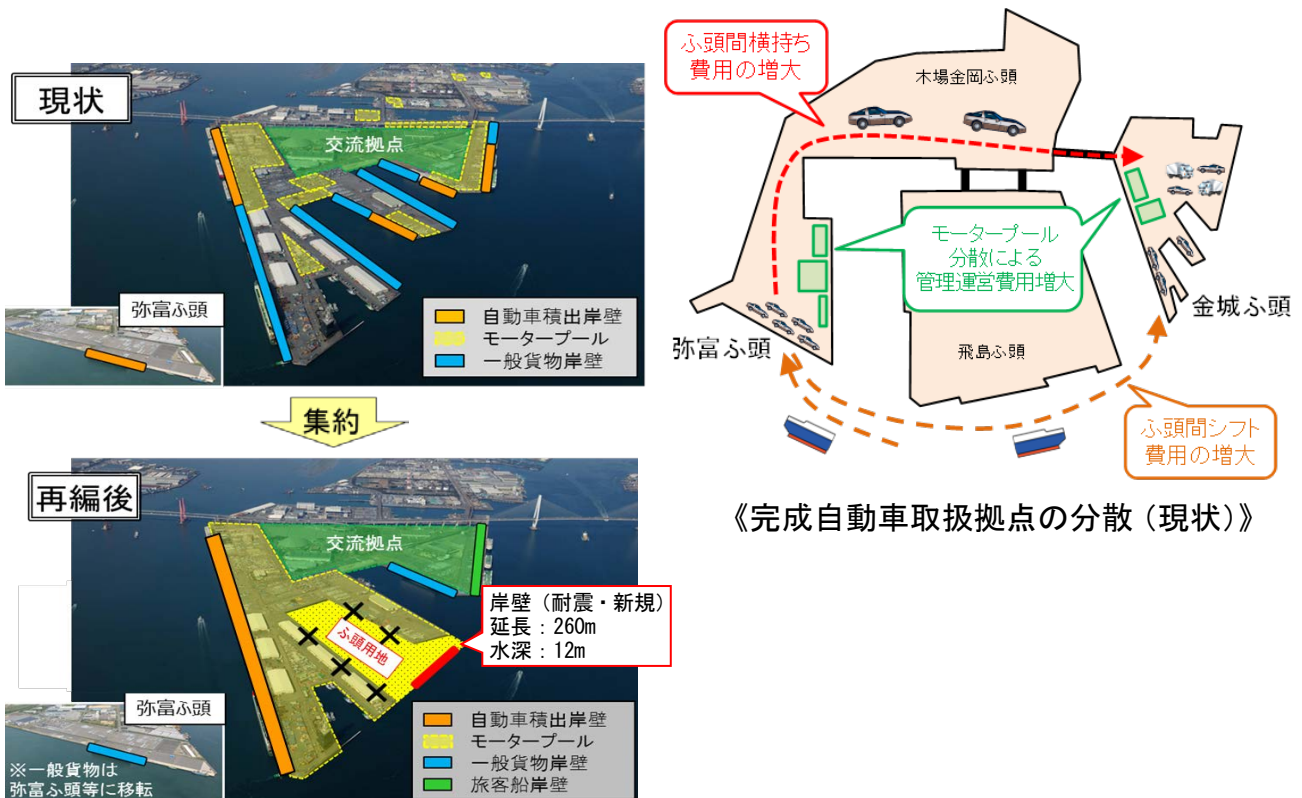
名古屋港は、中部地域の「ものづくり産業」の物流を支えている港です。

2019年の完成自動車輸出台数は、約144万台（日本全体の約23.6%）と41年連続で全国第1位となっております。

しかし、近年の自動車運搬船の大型化に伴い、岸壁延長や水深の不足など港湾機能不足が顕在化しているほか、ふ頭内の用地不足に伴い、完成自動車の船積み前の仮置きに使用されるモータープール（完成自動車の一時保管用地）が分散・点在し非効率な輸送を余儀なくされている状況です。

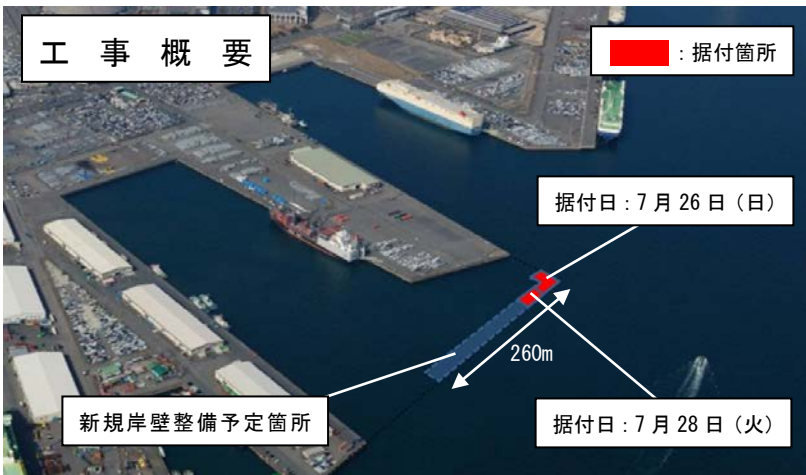
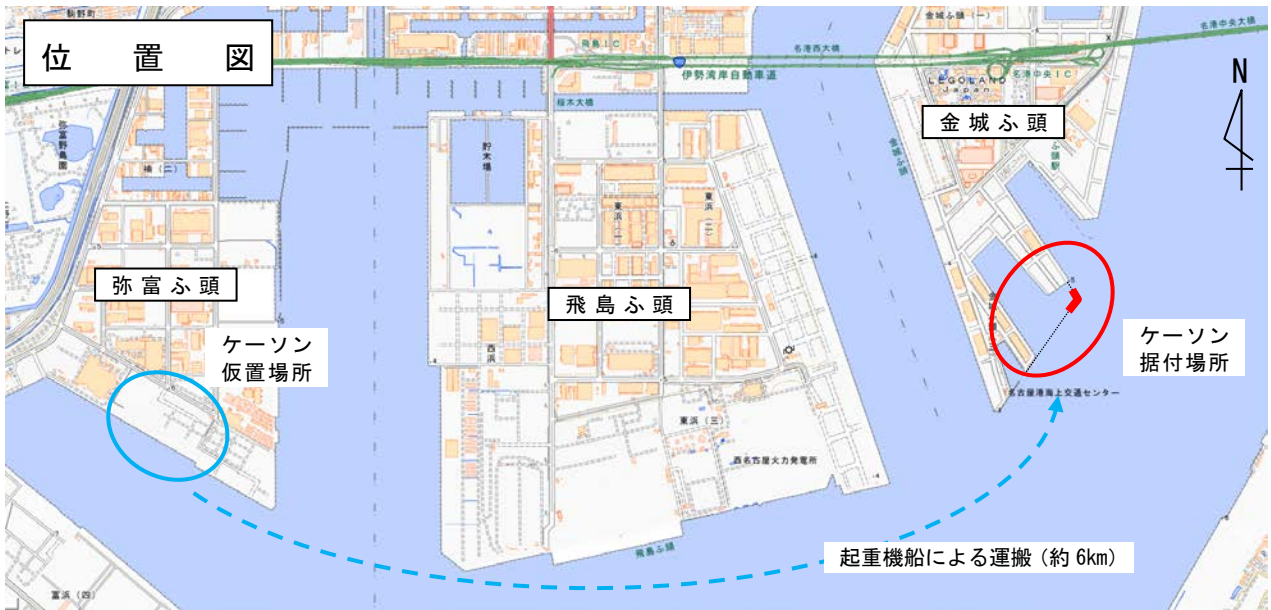
本事業は、自動車運搬船の大型化や完成自動車の輸出（新車・中古車・トランシップ）の需要増加に対応するため、既存ストックを有効活用したふ頭再編を行い、分散している完成自動車取扱機能を集約することで、完成自動車の効率的な海上輸送を実現し、地域基幹産業の国際競争力の維持・強化を図ります。

さらに、耐震強化岸壁を整備することで、震災時にも名古屋港での完成自動車輸送の継続が可能となります。

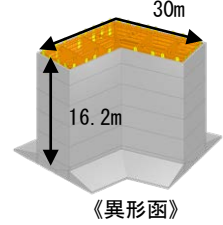
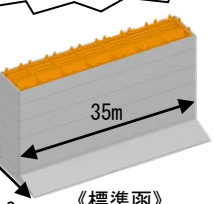


《完成自動車取扱拠点の分散（現状）》

《金城ふ頭再編イメージ》



仮置中のケーソン
(弥富ふ頭ケーソン仮置場所)



ケーソン諸元：
 (標準函) 高さ：16.2m、幅：17.2m、長さ：35.0m、重量：2,828t
 (異形函) 高さ：16.2m、幅：17.2m、長さ：30.0m、重量：2,142t

ハイブリッドケーソン据付けのサイクルタイム (1函/日)

	作業内容	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
1	玉掛・ケーソン吊上	←→											
2	係留解除		←→										
3	運搬(弥富→金城)			←→									
4	係留				←→								
5	ケーソン据付						←→						
6	玉掛・係留解除									←→			